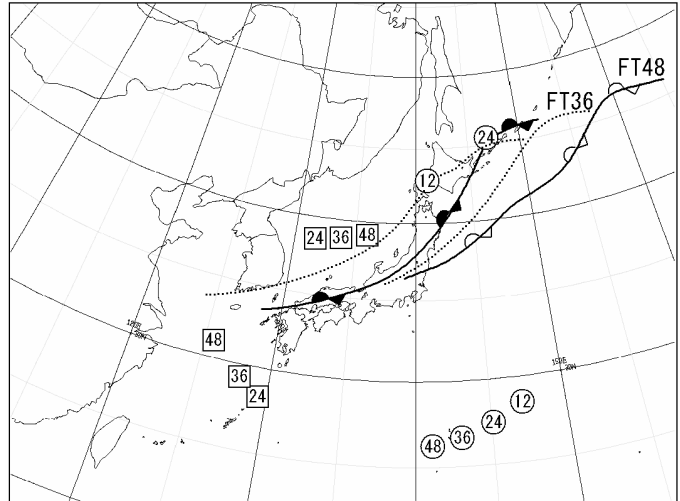


短期予報解説資料 2008年 8月 3日 15時40分発表
気象庁 予報部

1. 実況上の着目点

- ①前線が北海道南東海上、津軽海峡から日本海、対馬海峡にのびる。北海道渡島半島で解析雨量 20 ヶ前後。
- ②中国や九州北部には、前線南側の対流雲域がかかり、所々発達している。
- ③沖縄、奄美では所々で発達した対流雲が島にかかっている。実況注意。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1 項①の前線上の低気圧が、FT12～24 に北海道を通過、前線が FT24 にかけて、北日本、北陸を通過する。低気圧や前線近傍では暖湿気流入に伴う 1 時間 40～50 ヶの短時間強雨、落雷、突風に注意。
- ②FT36 以降、前線の西端（5880m 付近の流れ対応、700hPa の湿りや上昇流、850hPa 相当温位線の集中を伴う）が関東北部、東北南部付近に停滞するため、前線周辺では雨の降りやすい状態が続く。前線に流れ込む暖湿気により大気の状態は不安定、1 時間 50 ヶ前後の短時間強雨、落雷、突風のおそれがある。
- ③小笠原の東の低気圧は今後西南西進して小笠原諸島に接近する。上空には寒気を伴っており、対流雲が発達しやすい。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

- ① 2 項①の低気圧の表現は初期値変りが大きい。前回より速め、最新資料に近い線で、解説図のように考える。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

- ①大雨ポテンシャル（18 時からの 24 時間：地点最大）：北海道 150、東北 80、北陸 120 ヶ。
- ②波：波浪モデルを基本とする。

5. 全般気象情報発表の有無

大雨と雷及び突風に関する情報（最終）を 17 時まで発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。